

宗像守氏のご冥福をお祈り致します

宗像事務総長の体調崩したと聞いたのは、6月3日女性薬局経営者の会総会の時。リテル研究所の横田氏に会場前で行くわし、宗像氏の代理として登壇予定と聞かされた。その後、配置販売業協会の西村事務長より入院治療中と聞き、復帰予定は9月と耳にし安心していただけ、27日の昼前、同所篠原氏から嗚咽の混じった声に愕然とした。まさか、こんなにも早く、62歳という若さで。

宗像氏は配置業をこよなく愛して頂いた方である。宗像氏の配置業に対する理解と支援がなければ、現在の配置業者の多くを占める既存配置販売業許可（旧薬事法の一部存続）は有り得ず、急速な衰亡を余儀なくされたと想像される。ドラッグストア業界を率いる宗像氏は平成18年の薬事法改正まで、配置業界には全く縁もなく、薬事法改正に危機感を募らせていた当時の置き薬協会関係者の接触に答えて頂いたのが最初となる。その後、配置販売業存続への、同氏の発言、提案や協力が相俟って現在の制度確立に繋がった。薬事法改正から10年近く、配置業界には絶えずご配慮頂き、配置販売業協会、置き薬協会の双方に薬業界との幅広い接点を提供され、微力ではあるがその一員としての活躍の場と時間を頂いている。

宗像氏の出身は福島県郡山市と聞く。ご幼少の頃、実家で配置薬を飲まされ風邪や腹痛が治ったとお聞きした事がある。それは配置薬業界支援の伏線だったかもしれない。時々氏から「皆が良くならなくちゃならないんだよ」と聞いた事がある。「共存共栄」である。事業規模でドラッグストア業界の約1/30しか過ぎない配置薬業界を本来なら見放しても良いものを、そうはされなかった。「配置は活躍の場がまだ有るんだよ」と励まされた事もある。「自助努力」である。新たな展開の兆しが昨今、見え始めてきた。

配置薬業界にとっても宗像氏は欠け替えのない存在だった。

ご冥福をお祈り致します。

(一社) 日本置き薬協会
代表理事 有馬純雄